

優秀賞

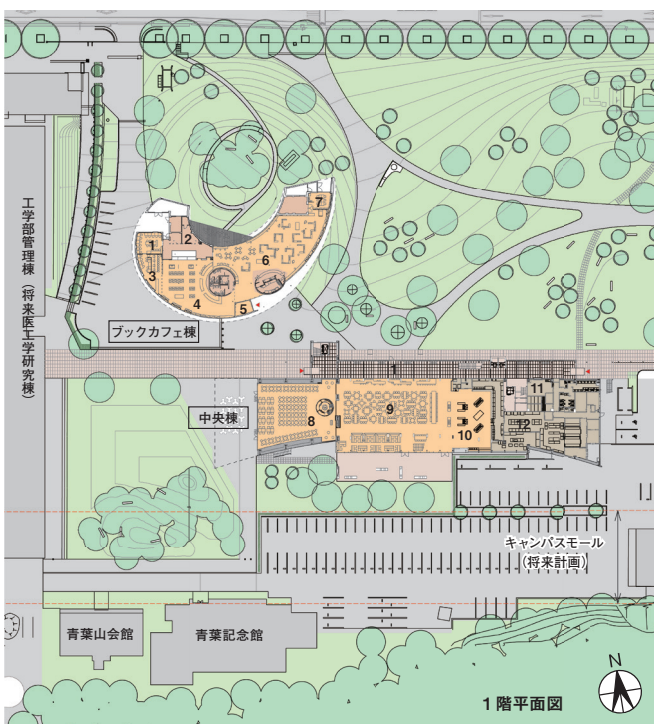
文化施設
(東北地区)

東北大学 青葉山東キャンパス センタースクエア



ロジヤ 2階よりダイニングをとおしてメザニンと南テラスを望む

建物全景及び改修後のランドスケープ：赤松の疎林のもとに曲線を描くブックカフェ棟、奥に水平に延びる中央棟を望む



- 1 サポートセンター 2 購買事務室 3 トラベルカウンター 4 購買店舗 5 風除室
- 6 ブックカフェ店舗 7 ブックカフェ事務室 8 ダイニング(2) 9 ダイニング(1)
- 10 フードコート 11 警備員室 12 厨房

所在地	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6
敷地面積 (m ²)	784,198.00
建築面積 (m ²)	3,244.00 (中央棟、ブックカフェ棟合計)
延床面積 (m ²)	6,361.00 (中央棟、ブックカフェ棟合計)
構造/階数	RC造、一部SRC造、S造/地上4階・地下1階 (中央棟)
事業者	国立大学法人東北大学工学研究科
設計者	株式会社山本堀アーキテクト
施工者	株式会社林銭高組
竣工年月	2011 (平成23) 年3月
総工事費	1,581 百万円

大学の教育研究の中心拠点。緑豊かな外部空間に開かれたキャンパスのシンボルとなる建築空間として、丘陵の尾根という敷地形状を生かしたランドスケープデザインと一体的に整備している。講義棟、学生食堂、購買店舗からなる老朽化した厚生棟の建て替えに加え、工学研究科の意志決定部門と事務部門を統括したオフィス、教授会大会議室、国際交流室などの諸室を中央棟とブックカフェからなる特徴的な分棟構成により集約的に再配置している。

中央棟は吹き抜けやガラスカーテンウォールによって透明感の高い明るい内部空間が内包され、室内にしながら緑に囲まれた心地よい「親緑空間」となっている。市内でも珍しいブックカフェは、学外からの訪問者がアクセスしやすく、開かれたキャンパスとして休日でも多くの市民が訪れている。

地元産木材の利用や風力により廃熱する自動換気システム排気窓の設置、吹き抜けによる自然光の活用など環境配慮も充実している。

プロポーザルで選定された設計者と大学関係者が綿密な調整を行い、デザイナーによって建築から家具、ランドスケープに至る環境がスケール横断的かつ統合的にデザインされており、青葉山の森に空間的統一感のある、市民に開かれたキャンパス環境が形成され、大学施設の新たな可能性が開示されている。

復興にも活躍した多目的施設

東日本大震災直前に竣工した本施設は、被災した学生、教職員及びその家族を受け入れ、食料の配給や健康状態の把握を行うなど、工学研究科・工学部の災害対策拠点として機能し、復興に向けて大いに活躍した。平常を取り戻した現在においても、1階の食堂は学生、教職員、一般の方で日々賑わっており、DOCKと呼ばれる軽食コーナーはセミナーや展示会、懇親会の会場としても利用されている。また、1、2階を複合的に活用することであらゆるニーズに対応し、食堂機能のほかにオープンキャンパスや科学者養成講座等、学外者向けのイベントにも多く利用され、県内外からの多くの方に来学して頂き、好評を得ている。

(東北大学工学研究科・工学部施設管理室長)